

JLEM News Letter Vol.60



第66回日本語教育方法研究会開催

発表 54 件 参加者 155 名

第67回はオンラインにて開催

2026年3月14日(土)、第66回日本語教育方法研究会が静岡大学で開催されました。参加者は155名(会員131名、非会員24名)で、活発な意見交換が行われました。

また、それに先立ち、3月11日(水)には、運営委員会が開かれました。議事については、このニュースレターの記事をご覧ください。

次回の第67回研究会は2026年9月12日(土)にオンラインで開催いたします。皆様、奮ってご参加ください。

開催を終えて

佐々木 良造
(静岡大学)

第66回研究会では、海外からの参加者を含め150名を超える会員のみなさまに静岡大学静岡キャンパスへお越しいただきました。54件の発表が行われ、会場では発表時間後にも質問や意見交換が続き、廊下や昼食交流会でも参加者同士の熱心に語り合う声が聞こえてきました。

本学での開催は、2019年度に予定しながら新型コロナウイルスの流行によってやむなく断念した経緯があり、6年越しの開催となりました。富

士の雪解の始まる陽気の中、ようやく皆様をお迎えできたことで、長年胸につかえていたものがおりたような思いがいたしました。

当日、会場運営を補助した本学の留学生にとっても、こうした研究交流の場に直接ふれることはよい学びの機会となりました。ご参加くださった皆様、また準備・運営にご尽力くださった運営委員の皆様、心より御礼申し上げます。次回以降の研究会も実りある交流の場として続いていくことを願っております。

講評

松崎 寛
(会長)

講評というか、今後も皆様には是非お願いしたいこととして、静岡大学での第66回研究会開会式でお伝えしたことを、ここに再掲します。

質問や答えはなるべく大きな声で、全体に話しかけるように進めていただけたらと思います。「やりとりこそがJLEMの命」なので、ポスター前の質疑を一对一で終わらせず、その場の全員が情報を共有できるように。特に質問者の声は、他の人からは背を

に向けた状態なので聞き取りにくいことも多いと思います。そんなときは、発表者が「ただ今のご質問はこれこれこういうことですね?」と一度全員に返してから話しはじめると良いと思います。

また、一人が延々やり取りを続けると、「質問したかったけど時間ないから他の発表に・・・」と諦めてしまう人も出るので、なるべく手短かに切って他の人に順番を回す配慮も必要かと思えます。

ポスター前の議論が実り多いものになりますように、ぜひ皆様の御協力をよろしくお願い致します。

次回開催にあたって

小森 万里
(事務局)

第67回研究会は、2026年9月12日(土)にZoomの会議システムを利用して遠隔で開催します。運営上の都合により発表件数の上限を80件とします。発表申込件数がそれを上回った場合には、発表申し込みをされた方を対象に抽選を行い、発表をしていただく方を決める予定です。抽選から漏れた方は、会誌原稿掲載をもって発表成立とします。詳細については「発表申込のご案内」をご覧ください。また、事前の動作確認のご依頼には対応いたしかねますので、各自で行ってください。

第21回 JLEM 奨励賞

JLEMの「優秀賞」は、①課題の設定やその検証の視点の独自性、②教育実践・研究成果の発展性、③ポスターの見やすさという3点を基準に審査され、優れた内容の発表を行った会員に授与されるものです。ただし、顕彰に値する発表があったと判断された際には、「奨励賞」「ポスター賞」を設け、授与する場合があります。第66回研究会の発表について、会長、及び3名の運営委員で構成されるJLEM賞選考委員会で審査を行ったところ、以下のようになりました。

奨励賞：長野真澄（岡山大学）

日本語多読授業における「読んだ読み物の数」の得点化と学習者の意識

優秀賞・ポスター賞：該当者なし

奨励賞の長野氏の発表は、大学での日本語多読授業における成績評価の在り方に関し、読んだ読み物の数の得点化が学習者に与える影響をもとに検討されたものでした。期末レポートや個別面談資料等の質的分析により、学習者が3つのタイプに類型化されました。これによって、現場のリアルな学習者の考えが可視化されたこと、加えて、研究手法が明確で分析が一貫していたこと、ポスターが研究内容の理解を促進するものであったことが評価されました。

一方で、選考委員会の席上では、学習者の類型化と成績評価の在り方との関連性については、より踏み込んだ検証の余地があるという指摘がされました。しかし、多読授業の参考

になる研究であり、さらなる発展の可能性があると判断され、本発表には「奨励賞」を授与することとなりました。受賞のポスターはJLEMのウェブサイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

（栗原通世）

運営委員会報告

第66回運営委員会は、2026年3月11日（水）にZoomを用いて行われました。出席者22名以外からは委任状や事前意見等が提出されました。

①会員数：3月11日時点で767名（内、国内738名、海外29名）このところ760人台で推移。

②運営委員の退任：

編集：大津友美さん（東京外国語大学）

企画・広報：根津誠さん（国際交流基金）

③運営委員の就任・異動：

中林律子さん（愛知淑徳大学）：編集

藤田百子さん（帝京大学）：編集

工藤嘉名子さん（東京外国語大学）

：編集→会長

小森万里さん（大阪大学）、鈴木綾乃さん

（横浜市立大学）：編集→事務局

松崎寛（日本大学）：会長→編集

（WEB）

内藤真理子さん（電気通信大学）、

畠山理恵さん（文化学園大学）：事務局

→企画・広報

④今後の開催予定：第67回は

2026年9月12日（土）に

Zoomで。第68回は2027年3月

に立命館大学大阪いばらきキャンパスで（その後3月22日（月・祝）に確定）。

⑤オンライン開催での交流会について：参加者が少ない。不参加理由

は「時間が合わない」「疲れた」「ブレイクアウトルーム出入りがしにくい」等。コロナ禍で対面開催ができなかった頃に開始した背景があるが、第67回は交流会を開催しないこととする。

⑥会長・事務局の研究会当日の交通費について：現状は下見の交通費しか支出されないが、会長・事務局は研究会への参加が必須であり、今後、遠方に住む運営委員への会長・事務局打診もしやすくなることから、今後は、研究会当日の交通費・宿泊費を必要経費として支出する。

⑦会費納入遅れ／年度途中入会者への会誌発送方法の変更：追加送付担当者が個別に年間150～200件の発送を行ってきたが、今後は納入期限までに支払った会員のみ、当該号の会誌を送付する。遡っての会誌送付請求には応じない。

以上、会員との関係が深い事項のみ報告しました。

（松崎寛）

新会長・事務局からの ごあいさつ

【会長】

2026年度より会長を引き継ぐこととなりました工藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

JLEMの魅力は何と言っても、日本語教育の現場に根ざした研究を気軽に持ち寄り、互いに学び合えることにあると感じています。授業でのちょっとした工夫や試みであっても「旬」の研究として共有し、率直な意見交換ができる。それがJLEMの

良さだと思えます。その特色が端的に表れているのが、JLEMの代名詞とも言えるポスター発表でしょう。「やりとりこそがJLEMの命」という前会長の名言どおり、参加者同士の活発なやりとりが豊かな教育実践・研究の「知恵」を生み出しているのだと思えます。

近年、日本語教育を取り巻く環境は大きく変わってきています。学習者の背景はますます多様になり、ICTの活用はもとより、生成AIの活用も今では当たり前ものとなっています。こうした変化を先取りしながら研究成果をいち早く発信できるJLEMの役割は、今後さらに重要性を増していくのではないかと思います。

JLEMは会員の皆様とともにつくる研究会です。これからも、これまで大切にされてきたアットホームで参加しやすい雰囲気を守りつつ、初めての方にも安心して参加・発表していただける場づくりを心がけていきたいと思えます。ぜひ気軽に研究会にご参加いただき、日々の実践・研究のアイデアを共有していただければ幸いです。

(工藤嘉名子)

【事務局】

2026年度より、内藤委員・畠山委員の2人から事務局を引き継ぐこととなりました、小森・鈴木です。JLEMは、「こんな授業実践をやってみたら同じようなことをしている人と話してみたい」「今行っている授業実践で悩んでいるから誰かに相談したい」「研究成果と呼べるほどのものはまだ出ていないけれどこのあたりで他の人の意見を聞いてみたい」な

ど、今、まさに興味があること、取り組んでいることを共有し、温かい雰囲気の中で活発な意見交換ができる場だと感じています。会員の皆様が気持ちよく参加し、よりよい日本語教育方法を考える研究会となるよう、微力ながらお手伝いしたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

(小森万里・鈴木綾乃)

事務局よりご連絡

●発表者の会費支払期限

第67回研究会で発表するためには、発表者(複数の場合は全員)は応募時点で2026年度の会費(2026年4月からの新年度分)を支払ってなければなりません。期限は2026年6月30日(火)です。その時点で入金を確認できない方については、発表申込を受け付けることはできませんので、早めに入金を済ませてください。昨年度の会費が未納の場合、今年度に会費を支払っても、昨年度分に充てられるため、今年度分は未納のままとなります。発表申込を行う前に、必ず発表者全員が各自の会員ページで今年度の会費支払いが済んでいることをご確認ください。

●発表をお断りする場合

本研究会では、以下の場合発表をお断りする場合がありますので、ご承知おきください。

- ①本研究会、または他の学会・研究会で既に発表された内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの

- ③特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ④特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの
- ⑤日本語教育との関連が見いだせないもの
- ⑥捏造、改ざん、盗用、著作権侵害の恐れがあるもの

補足:JLEM研究会誌は査読誌ではありませんので、公開された文章の責任は執筆者にあります。そのため、編集委員会では基本的に会誌原稿の内容の審査はしません。ただし、日本語教育方法研究会会則第2章第4条(<https://www.jlem-sg.org/pdf/kaisoku2015.pdf>)に照らし、発表しようとする内容が前条から著しく逸脱していると考えられる場合、編集委員会はその旨、会長および事務局に報告します。必要に応じて、会長、事務局、および編集委員会で協議を行い、協議の結果を編集担当者または事務局が発表者に伝えます。

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を送付していますが、返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。なお、転送サービスには対応していません。また、登録の際には、以下の点にご注意ください。

- ・集合住宅にお住まいの場合は建物名まで入力してください。
- ・郵便受けの表札名とご登録の苗字が異なる場合は、住所末尾に「○○方」と追記してください。

(小森万里)

会費納入について

会計年度は、4月から3月です。研究会のスムーズな運営のためにも、お早めにお支払いただきますようお願いいたします。なお、期日までに会費納入が終了していない場合は、会誌は送付されないことになりましたので、ご注意ください。会費納入の期限が守られない場合の個別郵送について、運営委員の負担が大変大きくなっておりますため、会誌郵送のルールをこのように変更いたしましたこと、ご理解いただければ幸いです。会費納入最終締切は後日会員メーリングリストでお知らせしますが、遅くとも発表申込締切日までにはお支払いただきますようお願い申し上げます。

退会される場合は、3月末までに退会処理をお願いいたします。4月になりますと、新年度の会費納入義務が生じますので、お気を付けください。

●振込先

①郵便局の電信払込の場合

記号:10140

番号:69076511

加入者名:日本語教育方法研究会

振込者名:(氏名だけで可)

②銀行からの振込の場合

銀行名:ゆうちょ銀行

金融機関コード:9900

店番:018

預金種目:普通

店名:〇一八店(ゼロイチハチ店)

口座番号:6907651

加入者名:ニホンゴキョウイクハウ
ハウケンキウウカイ

振込者名:(氏名だけで可)

●所属先名で振り込む場合

所属先の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。所属先が前だと会員名がカットされることがあります。

●会員番号で振り込む場合

会員番号の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。会員番号が前だと会員名がカットされることがあります。

●ご登録の会員名と異なる名義で振り込む場合

必ず振り込みの度に、ホームページの「お問い合わせ」より、その旨ご連絡ください。

●振り込む方の名義が外国語で表記される場合

ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。特に、中国の方はピンインで表記されることが多いため、ご登録の会員名(JLEMのシステムでは漢字とカタカナのみ)を検索して確認するのに時間がかかっています。お手数ですが、振り込んだというご連絡をいただくと助かります。

(小森万里・鈴木綾乃)

運営委員会メンバー

会長:工藤嘉名子(東京外国語大学)
事務局:小森万里(大阪大学),鈴木綾乃(横浜市立大学)

会計:伊藤夏実(東京農工大学),島崎薫(東北大学),高橋亜紀子(宮城教育大学),平田秀(武蔵野大学)
編集(ニュースレター担当):世良時子(上智大学)

編集(会誌担当):内山喜代成(桜美林大学),榎原実香(東京科学大学),荻原まき(桜美林大学),尾沼玄也(拓殖大学),香月裕介(神戸学院大学),鴈野恵(筑紫女学園大学),栗原通世(国士舘大学),佐々木良造(静岡大学),佐藤淳子(北海道大学),中林律子(愛知淑徳大学),生天目知美(東京海洋大学),平山允子(日本学生支援機構),藤田百子(帝京大学),古内綾子(明治大学),村上智子(京都精華大学)

編集(J-STAGE担当):寺嶋弘道(立命館アジア太平洋大学)

編集(WEB 広報担当):松崎寛(日本大学)

情報管理:金蘭美(横浜国立大学),佐藤礼子(東京科学大学),篠崎大司(別府大学/株式会社篠研),橋本直幸(福岡女子大学)

企画・広報:河野俊之(横浜国立大学),俵山雄司(名古屋大学),内藤真理子(電気通信大学),中川健司(横浜国立大学),島山理恵(文化学園大学)

日本語教育方法研究会

問い合わせ先:jlem-ml@jlem-sg.org

(レター編集:世良時子)